

**富良野市**  
**こども計画策定に関するアンケート**  
**関係団体等調査**  
**結果報告書**

**令和8年3月**  
**富良野市**



# 目次

<b>I 調査の概要</b> .....	<b>1</b>
<b>1 調査の目的及び調査方法等</b> .....	<b>1</b>
(1) 調査目的.....	1
(2) 調査対象及び調査方法、回収結果.....	1
<b>2 本調査報告書の基本的な事項</b> .....	<b>1</b>
(1) 数値の基本的な取り扱いについて .....	1
<b>II 調査結果</b> .....	<b>2</b>
<b>1 関係団体等について</b> .....	<b>2</b>
(1) 活動内容の概要.....	2
(2) こども・若者に関する活動を進めるための課題 .....	3
(3) 人材派遣会社または人材紹介会社の活用等 .....	4
<b>2 こどもの様子に関することについて</b> .....	<b>6</b>
(1) こども・若者の様子で気になること .....	6
(2) 情報提供や支援などの対応をしたことがあるか.....	7
(3) 対応する際の課題や悩み、関係機関等に求めること .....	7
<b>3 子育て支援活動について</b> .....	<b>9</b>
(1) 日頃の活動を通じて課題と感ずること .....	9
(2) 課題解決に向け取り組めること・取り組みたいこと .....	10
(3) 職員がこどもの権利について学ぶ機会 .....	11
(4) こどもの意見や声を聴くための取組の実施や予定 .....	11
(5) こどもの意見や声を聴くための取組の実施方法について.....	12
(6) 市が特に取り組むべきこと.....	13
(7) 「こどもまんなか社会」に向け取り組んでいること .....	15
<b>4 自由意見</b> .....	<b>16</b>
(1) こども・若者の支援についての意見・要望.....	16

# I 調査の概要

## 1 調査の目的及び調査方法等

### (1) 調査目的

「第3期子ども・子育て支援事業計画」に加え、支援対象を子どもや若者世代へと拡充し「富良野市子ども計画」を策定することで、子どもや子育て当事者、子育て支援団体等を総合的に支援する体制づくりのための基礎調査として実施しました。

### (2) 調査対象及び調査方法、回収結果

項目	内容
調査対象	関係団体等
調査方法	郵送法
調査時期	令和8年1月
調査地区	富良野市内全域
配布数	24票
有効回収数	16票
有効回収率	66.7%

## 2 本調査報告書の基本的な事項

### (1) 数値の基本的な取り扱いについて

- ① 比率はすべて百分率（%）で表し、小数第2位を四捨五入して算出しています。従って、合計が100%を上下する場合があります。
- ② 各設問のグラフの母集団の総数は、“n = ○○○”として掲載し、各比率はnを100%として算出しています。
- ③ 回答者が複数の選択肢を回答できる設問については、各回答の合計比率が100%を超える場合があります。
- ④ 文中、グラフ中の選択肢の文言は、一部簡略化しています。

## II 調査結果

### 1 関係団体等について

#### (1) 活動内容の概要

活動内容の概要としては、以下の通りとなっています。

活動内容の概要
<ul style="list-style-type: none"><li>● フードバンクを始め地域食堂の運営。</li><li>● 昨年より「経験格差」の問題にも取り組み、体験イベントなどを実施。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>● 富良野圏域の障がい児（主に未就学児～中学生）を対象に、障害児支援利用計画の作成やモニタリングを実施。</li><li>● 家庭や関係機関と連携し、地域生活の課題整理や支援調整を行っている。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>● 企業主導型保育で、日々戸外遊びを中心に過ごし、丈夫な身体作りを行っています。また、夏は食育として畑活動も行い、秋にはみんなで収穫を楽しんでいます。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>● 小規模型事業所内保育事業運営。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>● 乳幼児（0～2歳）の託児・保育。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>● すまいるっこは、すまいるふらのに勤務する職員のお子さまを対象とした企業保育事業です。</li><li>● 定員は6名、生後8ヶ月から2歳児まで受け入れ、8時30分から17時30分まで保育を行っています。</li><li>● 自然豊かな環境を活かしながら、地域の高齢者・障がい者・外国人など、多様な人々と関わる機会を大切に、共生社会の実現を目指す理念のもと、子ども一人ひとりの気持ちを尊重し、自己肯定感を育む保育を重視している点が特徴です。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>● 保育施設（0～2歳児・事業所内保育施設）小規模型 A 型</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>● 学習支援、就労支援、自然農園体験活動、居場所、レク活動。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>● 幼児教育</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>● 満3歳から6歳の就学前の幼児の保育及び教育を行っています。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>● 生活全般に関する相談と支援。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>● 旭川法務局電話相談（月～金）8：30～17：15</li><li>● 小中高校等で人権教室（いじめ、ネット上の問題点、デートDV等）</li><li>● 人権の花運動（小学校で花の栽培を通して、心の豊かさを!!）</li><li>● SOS ミニレターを小中児童、生徒に配布し、その返事を書き問題処理。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>● 認定こども園～幼児教育と保育を一体的に行っている。地域の子育て支援を担う施設である。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>● 学校を訪問し、不登校等、気になる児童・生徒さんの情報をいただき、その地域の民生委員と主任児童委員とで見守りなどを行う。</li></ul>

## (2) 子ども・若者に関する活動を進めるための課題

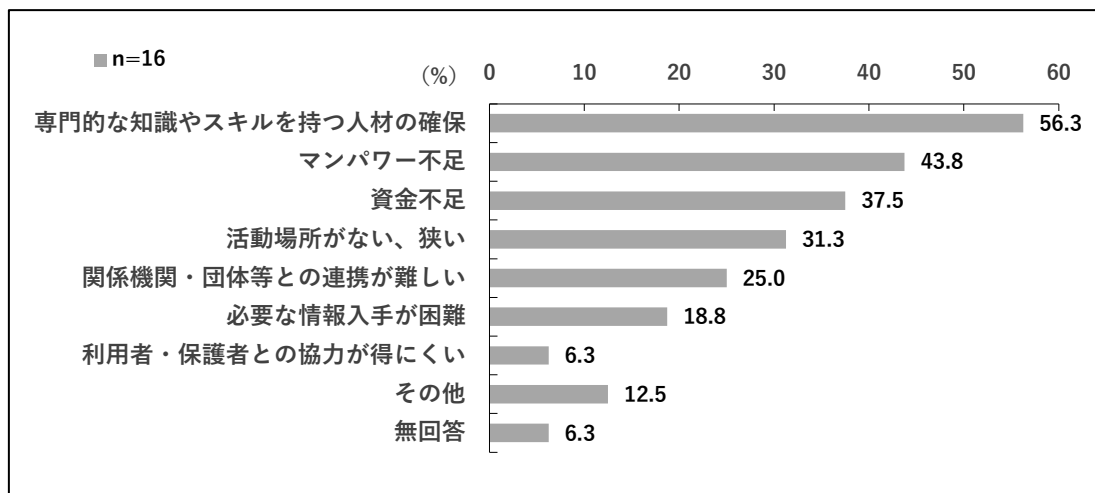
問2 貴団体等の子ども・若者に関する活動を進めるうえで、課題となっていることは何ですか。【複数回答】

### 結果概要

「専門的な知識やスキルを持つ人材の確保」が第1位となっている。

子ども・若者に関する活動を進めるための課題となっていることについては、「専門的な知識やスキルを持つ人材の確保」(56.3%・9件)が第1位、次いで「マンパワー不足」(43.8%・7件)、「資金不足」(37.5%・6件)、「活動場所がない、狭い」(31.3%・5件)、「関係機関・団体等との連携が難しい」(25.0%・4件)、「必要な情報入手が困難」(18.8%・3件)、「利用者・保護者との協力が得にくい」(6.3%・1件)などの順となっています。

### ■子ども・若者に関する活動を進めるための課題（全体/複数回答）■



### 【その他・2件】

- 子どもの未来を考える仲間を増やしたい。
- 少子化により、預る子どもの人数が減少している。また介護事業所の福利厚生として実施してきた保育事業の経営は厳しく、費用対効果等を考え、R 8.3.31で保育所閉鎖の予定である。

### (3) 人材派遣会社または人材紹介会社の活用等

問2-1 問2の「マンパワー不足」と回答した団体にお聞きします。人材派遣会社または人材紹介会社の活用等（以下「派遣会社等」という）についてお答えください。

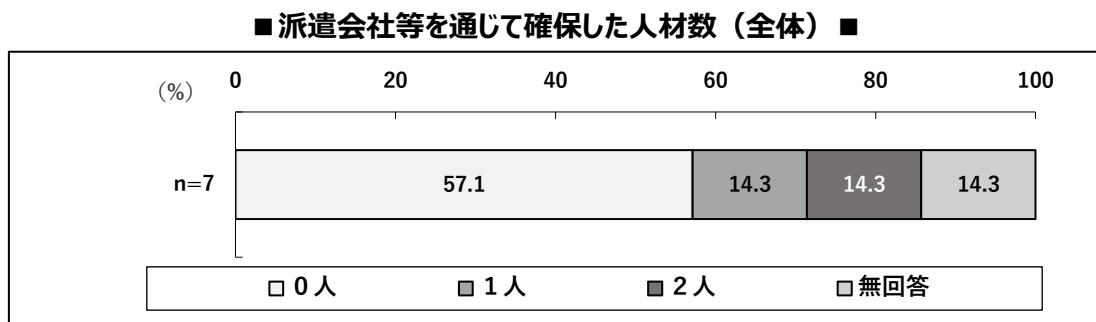
#### 結果概要

「マンパワー不足」と回答した団体（7件）が、派遣会社などを通じて確保した人材数は、「0～2人」となっている。また、今後、派遣会社等による人材派遣の活用を「検討をしたい」と考えている団体は、4割強、「検討しない」団体は6割弱を占めている。

なお、「検討しない」団体（4件）のうち、市の助成制度について「検討をしたい」団体は、7割台半ばを占めている。

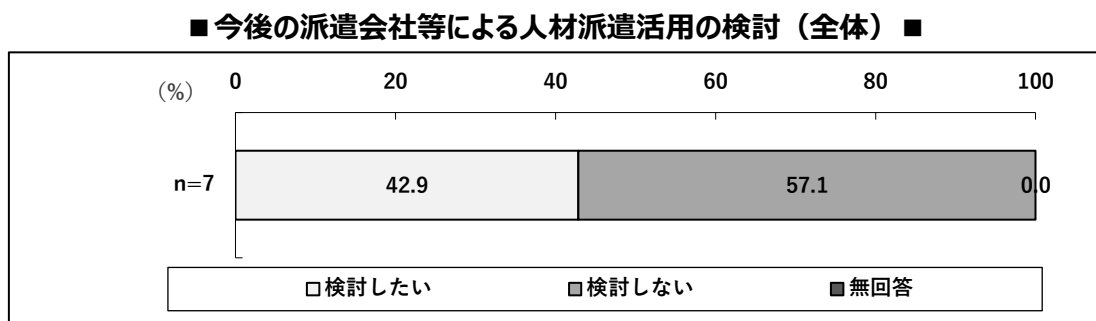
#### ① 派遣会社等を通じて確保した人材数

派遣会社等を通じて確保した人材数については、「1人」・「2人」（同率 14.3%・1件）となっています。なお、「0人」は 57.1%・4件となっています。



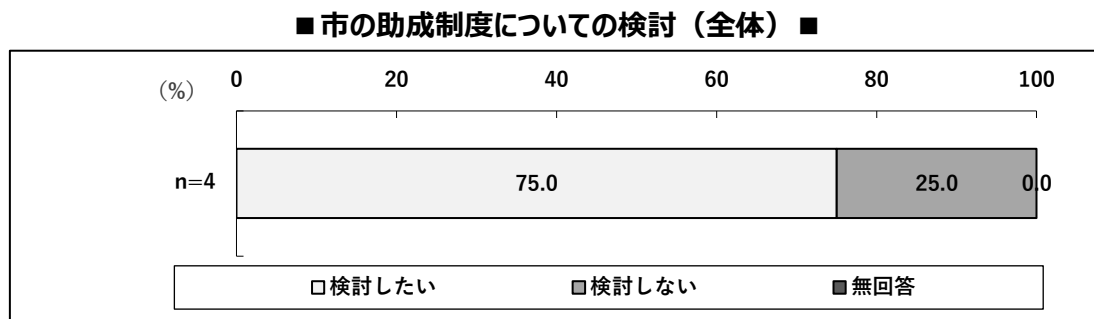
#### ② 今後の派遣会社等による人材派遣活用の検討

今後の派遣会社等による人材派遣活用の検討については、「検討しない」（57.1%・4件）、「検討したい」（42.9%・3件）となっています。



③ 市の助成制度についての検討

市の助成制度についての検討については、「検討したい」（75.0%・3件）、「検討しない」（25.0%・1件）となっています。



## 2 こどもの様子に関することについて

### (1) こども・若者の様子で気になること

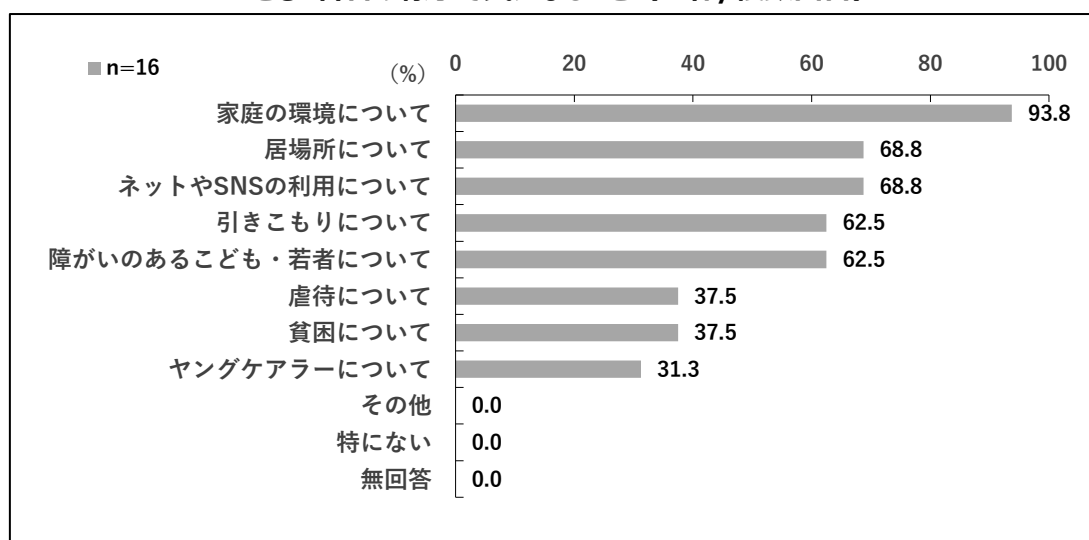
問3 こども・若者の様子で気になることは何ですか。【複数回答】

#### 結果概要

「家庭の環境について」が第1位となっている。

こども・若者の様子で気になることについては、「家庭の環境について」(93.8%・15件)が第1位、次いで「居場所について」・「ネットやSNSの利用について」(同率68.8%・11件)、「引きこもりについて」・「障がいのあるこども・若者について」(同率62.5%・10件)、「虐待について」・「貧困について」(同率37.5%・6件)、「ヤングケアラーについて」(31.3%・5件)などの順となっています。

■こども・若者の様子で気になること（全体/複数回答）■



## (2) 情報提供や支援などの対応をしたことがあるか

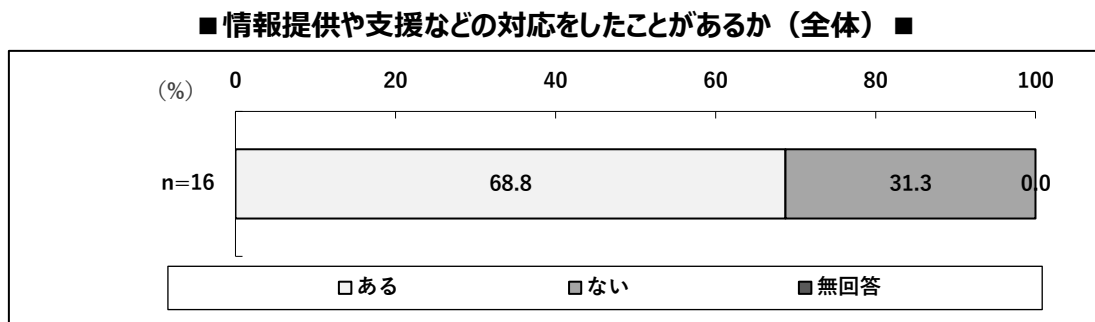
問 3 で「特にない」以外に✓をつけた方に伺います。

問 3-1 上記について、貴団体等として話を聴いたり、情報提供や支援をしたりするなどの対応をしたことがありますか。【1つに✓】

### 結果概要

「ある」が7割弱を占める。

情報提供や支援などの対応をしたことがあるかについては、「ある」(68.8%)、「ない」(31.3%)となっています。



## (3) 対応する際の課題や悩み、関係機関等に求めること

問 3-1 で「ある」と答えた方に伺います。

問 3-1-1 上記で対応する際、課題となることや悩むこと、関係機関等に求めることなどがあれば、内容を教えてください。

対応する際の課題や悩み、関係機関等に求めることについては、以下の通りとなっています。

### 対応する際の課題や悩み、関係機関等に求めること

福祉サービス終了後に伴い、計画相談も終結となってしまいます。計画相談終了後もご家庭が孤立せず、地域の居場所や相談先とゆるやかにつながり続けられる仕組みづくりを今後も関係機関の皆さまと共に検討していければ幸いです。

多職種で早い段階から方針を共有し合い、保護者様の不安に寄り添った支援をさらに深めていきたいです。

日常的な活動を通して、子どもの現状や大人の課題が見えてきます。そのことを一緒に考える仲間を増やしていきたいです。そのために、関係機関と協力し合っていけたらと思います。

対応する際の課題や悩み、関係機関等に求めること
<p>家庭環境については、昨今のネット利用増による子どもへの影響（見ている時間の長さ、睡眠不足等）が気になること、食事に関連することは偏食で長い目で見守りつつ、成長、発育、健康に影響が出てこないか、早い段階で関係機関からの話を聞く、指導してもらおう等の場があるといいと思います。</p>
<p>居場所は過ごす場所（室内遊技場で親も交流できる場所など）がないとの意見から、場所を提供しています。全天候で、対応可能な遊び場含めて、子どもも若者も過ごせる場所が必要だと思います。</p>
<p>こども・若者（保育・幼児・児童・生徒・青年期福祉、義務教育→後期中等教育）と切れ目のない支援。  行政では対応しきれない（警察含む）こどもの問題（自傷行為、性暴力、虐待など）に即対応できるような体制の構築（シェルターや一時保護など）。  より多くのこども・若者への支援を行いたいが資金不足のため一定対象が限られる。  貧困家庭やひとり親世帯への支援が及ばない。</p>
<p>関係機関と連携し進めています。</p>
<p>児童相談所などに関係することでも、当事者は素直に現状を知らせてくれることはないので、情報提供のみになってしまう。</p>
<p>家族のこと、病気や障害のこと、お金のことなど問題は多岐にわたることが多く、それら課題に横断的に対応できる体制づくりが重要で、多機関連携の仕組みづくりが重要になると考えます。  市役所内部の協働体制づくりも進めていただきたいです。</p>
<p>私自身からはないが、電話相談において人権侵害だと判断された場合は、学校、教育委員会、児童相談所等と連携して対応を図る。</p>
<p>幼児の家庭の環境について気になる事があった場合は、家庭相談員や専門機関に相談している。  支援を必要とする子についてはまず保護者の理解、協力が必要でそれが難しいケースがある。また特別支援には専門的な知識や経験も必要とし、若い先生の育成が必要。人手不足の現状である。</p>
<p>立場としてつなぐ役目であり、直接関わりを持つことはほとんどないが、見守りをしながら、手助けできることはしていける。関係機関との情報共有ができなければ、知ることなく、見逃してしまうことになる。知らなければ、何もできないので、地域に関わる民生・児童委員との連携をもっと意識していただくとよいと思う。</p>

### 3 子育て支援活動について

#### (1) 日頃の活動を通じて課題と感ずること

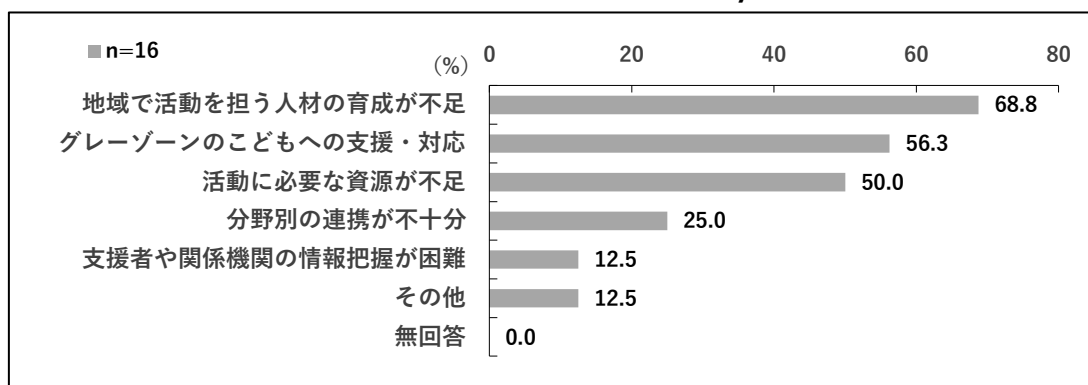
問4 富良野市の子育て支援や子育て環境について、日頃の活動を通じて課題と感ずることはありますか。  
【複数回答】

#### 結果概要

「地域で活動を担う人材の育成が不足」が第1位となっている。

日頃の活動を通じて課題と感ずることについては、「地域で活動を担う人材の育成が不足」(68.8%・11件)が第1位、次いで「グリーゾーンの子どもへの支援・対応」(56.3%・9件)、「活動に必要な資源が不足」(50.0%・8件)、「分野別の連携が不十分」(25.0%・4件)、「支援者や関係機関の情報把握が困難」(12.5%・2件)などの順となっています。

#### ■ 日頃の活動を通じて課題と感ずること (全体/複数回答) ■



#### 【その他・2件】

- 子ども・若者支援を実施する民間への支援、助成金等の情報提供、民間団体を支援する仕組みの構築。
- 子どもが集まり、自主的に活動できる場所が不足している。

## (2) 課題解決に向け取り組めること・取り組みたいこと

問4-1 その課題解決に向けて、貴団体として取り組めること、または取り組みたいと思うことはありますか。具体的な事例やアイデアがあればご記入ください。



課題解決に向け取り組めること・取り組みたいことについては、以下の通りとなっています。

課題解決に向け取り組めること・取り組みたいこと
公的支援の狭間にいる「グレーゾーン」や不登校の子どもたちのために、学校でも家庭でもない「第三の居場所」が必要だと感じています。私たちもその受け皿を作りたいと考えていますが、民間単独のボランティアベースでは継続性に限界があります。行政が民間団体へ運営を委託したり、運営費を補助したりする仕組み（公設民営や助成制度）の創設を求めます。
お子様の不登校や環境の変化など、将来的に福祉サービスを離れる段階など、支援の切れ目が生じやすい場面において、園・学校・医療・行政等の皆さまと情報共有を行い、ご本人やご家庭が地域で安心して過ごせるよう、見守り合える仕組みを今後もこども未来課や関係機関の皆さまと一緒に検討していければ心強いです。
0～2歳児が主の保育園なので時期的には診断前であることの方が多いと思いますが、一人ひとりの発達具合や成長スピードに合った声掛け、保育を行っています。市の発達検診の結果を聞いて課題が見つければ、職員で共有して保育園に取り入れるなど、参考にさせていただきたいと思います。
心を育て合うような取り組みを日常的に続けています。生の舞台観賞、遊び会、子ども会議、茶話会、他地域との交流。
園以外での遊び場が限られているので、特に室内で遊べる場所として、園を開放する日を設けたり、他の園にも可能であれば、交流する機会を作れると日々の保育の参考にも、刺激にもなると考えます。
閉鎖予定のため、お答えしかねます。
人材育成について：地域のこども・若者が、大学生、青年と直接触れ合うワークショップ等の実施。地方に出て行った富良野出身の若者たちが、地元人材育成のために戻ってこられるような生業の創出。 必要な資源について：民間、行政含め、助成金等、情報の提供と行政としての資金分配ノウハウの構築。
園として卒園後も楽器に触れられるよう、バンド活動を行っています。 小・中学生も利用しやすい屋内運動場や利用しやすいPRがあると良いと思います。
障害手帳の有無や年齢などの枠にとらわれず、その人（その世帯）の課題に焦点を当てた関りが各機関でできるようになれば、グレーゾーンのこどもや他分野にわたる課題を持つケースにおける支援の隙間は減っていくと考えます。ワンストップの支援体制を組織内外で整備していくと良いと思います。
人材不足については、高齢者社会となり、また65歳までは仕事をするようになって、今後も難しいだろう。
幼稚園教諭、保育士が不足している現状なので、学生のうちから職場体験等を通して関心を持ってもらえるよう、将来の人材に繋がるきっかけとなるよう、働きかけや努力をする。働きやすい職場となるよう環境作りや改善を行う。
民児協の例会時に子育て支援、子ども関わることへの認識を深めるための学習会等をしていきたいと思う。

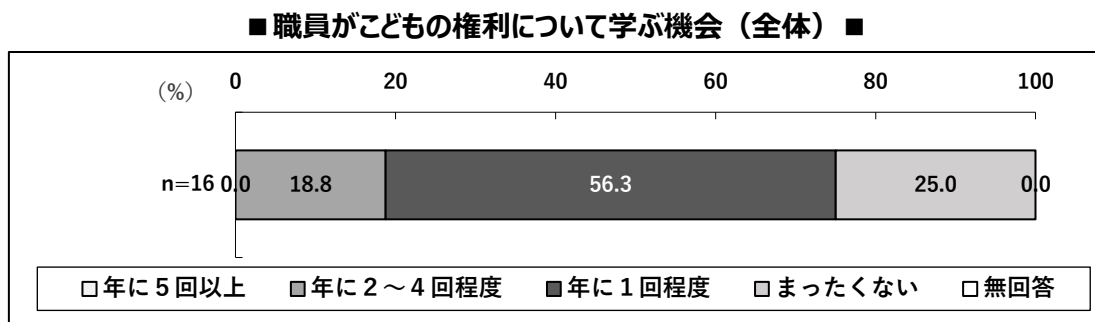
### (3) 職員が子どもの権利について学ぶ機会

問5 貴団体等では、職員が「子どもの権利」について学ぶ機会がありますか。【1つに✓】

#### 結果概要

「年に1回程度ある」が6割弱を占める。

職員が子どもの権利について学ぶ機会については、「年に1回程度ある」(56.3%)が最も多く、次いで「年に2～4回程度ある」(18.8%)となっています。なお、「まったくない」は25.0%となっています。



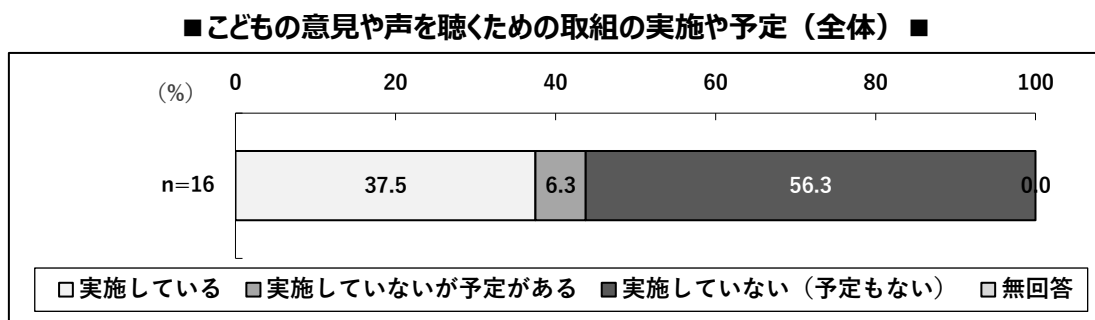
### (4) 子どもの意見や声を聴くための取組の実施や予定

問6 貴団体等では、子どもの意見や声を聴くための取組を実施していますか。または、今後実施する予定はありますか。【1つに✓】

#### 結果概要

「実施していない(予定もない)」が6割弱を占める。

子どもの意見や声を聴くための取組の実施や予定については、「実施していない(予定もない)」(56.3%・9件)、「実施している」(37.5%・6件)、「実施していないが予定がある」(6.3%・1件)となっています。



## (5) こどもの意見や声を聴くための取組の実施方法について

問6で「実施している」または「実施していないが予定がある」と答えた方に伺います。

問6-1 貴団体等は、どのようにこどもの意見や声を聴くための取組を実施していますか（実施する予定ですか）。



こどもの意見や声を聴くための取組の実施方法については、以下の意見がありました。

こどもの意見や声を聴くための取組の実施方法
体験格差の解消を目的として、子供たちのやってみたいという意欲をカタチにする取り組みを実施しています。単なるイベント参加にとどまらず、事前の子ども会議を通じて、企画立案から運営・実務までを子どもたち自身に任せています。大人が与えるのではなく、子供自身が試行錯誤するプロセスを目指しています。
本人が低年齢児や意思表示が難しいお子様の場合は、保護者様から日頃の様子を詳しく伺っています。また、改まった面談形式だけでなく、放課後等デイサービス等の訪問時に、日々の活動や雑談の中でご本人の気持ちを汲み取れるよう努めています。
年に何度か子ども会議を実施しています。子ども会議では、子どもたちの素直な気持ちを出し合える場となっています。また、日常的に行動を通して、子どもたちの様子や成長を話し合っ、大人が子どもに向き合えるような意識作りをしています。
アンケートや面談のような取り組みではありませんが、日頃からこどもの声や発言に耳を傾け、寄り添う保育を実践することを心がけています。
様々な活動にこどもの意見を取り入れ尊重している。倫理規定にこどもの権利条約を明記している。事例やケースをファイル化し、失敗事例も含めてコンプライアンスやこどもの権利に則してどうなのか議論する場を定期的に実施している。
人権教室の主な内容は、いじめ、ネット上の危険性、デートDV、子どもの権利条約等で行い、子どもたちの発言を聞きながら、学級・子どもの実態把握に努めている。
幼児のため意見を聴くことは難しいので、普段の会話で気になることや言動、問題があれば専門家や家庭相談員などに、保護者への対応等を相談している。
学校訪問をしながら、情報共有できることは協力し、夏休み等、学習支援等の依頼があれば参加していく。朝の登校の見守り、時になる生徒、児童の見守りを続けて実施していく。子ども食堂のサポートも続けているが、認識が広がるようにできると良いと思う。

## (6) 市が特に取り組むべきこと

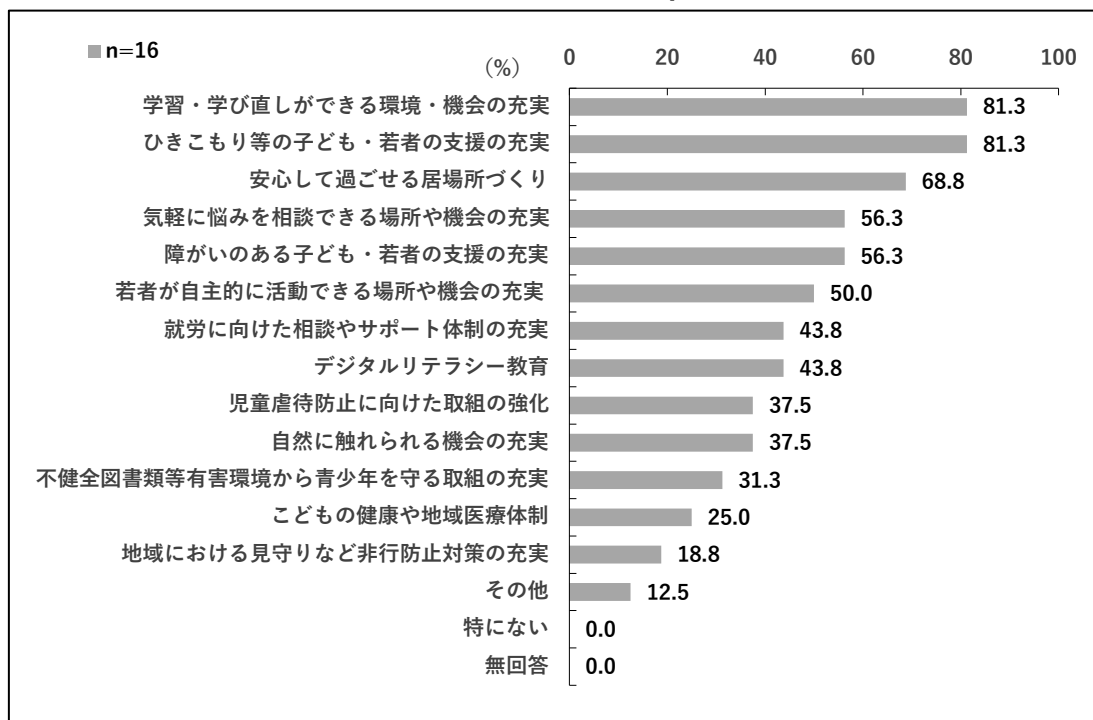
問7 こどもや若者が希望をもてる富良野市となるために、富良野市が特に取り組むべきことは何だと思いますか。【複数回答】

### 結果概要

**「学習・学び直しができる環境・機会の充実」・「ひきこもり等の子ども・若者の支援の充実」(同率)が第1位となっている。**

市が特に取り組むべきことについては、「学習・学び直しができる環境・機会の充実」・「ひきこもり等の子ども・若者の支援の充実」(同率 81.3%・13 件)が第1位、次いで「安心して過ごせる居場所づくり」(68.8%・11 件)、気軽に悩みを相談できる場所や機会の充実」・「障がいのある子ども・若者の支援の充実」(同率 56.3%・9 件)、「若者が自主的に活動できる場所や機会の充実」(50.0%・8 件)、「就労に向けた相談やサポート体制の充実」・「デジタルリテラシー教育」(同率 43.8%・7 件)、「児童虐待防止に向けた取組の強化」・「自然に触れられる機会の充実」(同率 37.5%・6 件)、「不健全図書類等有害環境から青少年を守る取組の充実」(31.3%・5 件)などの順となっています。

■ 市が特に取り組むべきこと (全体/複数回答) ■



**【その他・2件】**

- 各課題は相互に関連しており、居場所づくりが不登校や虐待の未然防止、将来の就労支援にも繋がると考えています。ライフステージの各段階で支援が途切れないよう、行政と連携して『切れ目のない安心』を目指していきたいです。
- 包括的性教育、AI活用、英語教育、社会教育やキャリア教育、企業支援。
- 子育て世代に対する経済的、社会的支援の強化。

## (7) 「こどもまんなか社会」に向け取り組んでいること

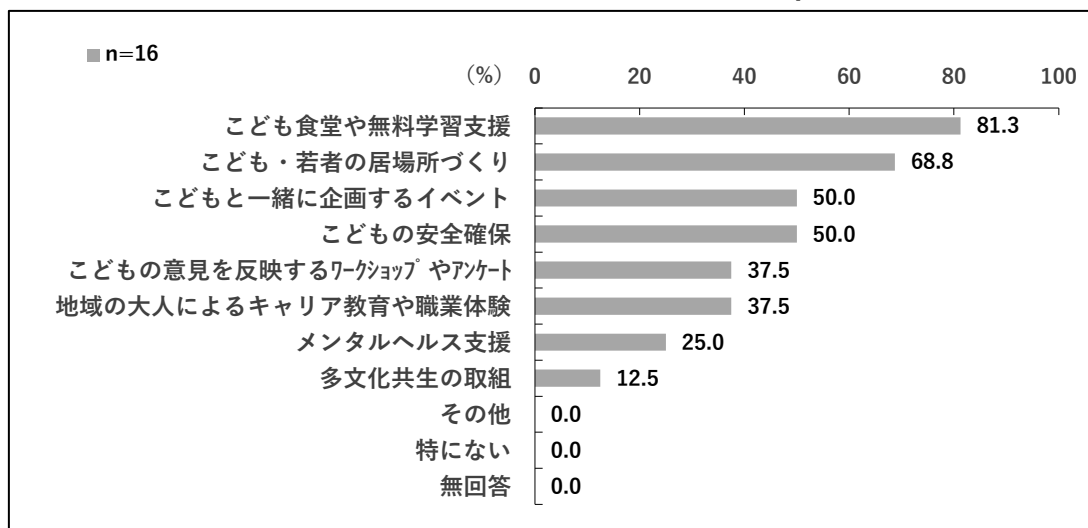
問8 「こどもまんなか社会」に向けて、貴団体や地域で取り組んでいること、または聞いたことがある事例はありますか。【複数回答】

### 結果概要

「こども食堂や無料学習支援」が第1位となっている。

「こどもまんなか社会」に向け取り組んでいることについては、「こども食堂や無料学習支援」（81.3%・13件）が第1位、次いで「こども・若者の居場所づくり」（68.8%・11件）、「こどもと一緒に企画するイベント」「こどもの安全確保」（同率50.0%・8件）、「こどもの意見を反映するワークショップやアンケート」・「地域の大人によるキャリア教育や職業体験」（同率37.5%・6件）などの順となっています。

### ■「こどもまんなか社会」に向け取り組んでいること（全体/複数回答）■



## 4 自由意見

### (1) こども・若者の支援についての意見・要望

富良野市のこども・若者の支援について、ご意見やご要望がありましたらご自由にお書きください。



こども・若者の支援についての意見・要望については、以下の意見がありました。

自由意見
<p>制度の対象外となるグレーゾーンの子どもの受け入れ先が圧倒的に不足しています。また家庭環境の違いによる体験格差も深刻です。</p> <p>私たちは将来的にこうした子供たちを受け入れ、さらに子ども会議などを通じて自ら企画・運営を行う機会を提供し、体験格差の解消に取り組んでいます。</p> <p>ただの預かり場所ではなく安心して過ごせる場所・成長につながる質の高い体験を両立できる環境を行政と連携して整備していきたいと考えてます。</p> <p>その実現に向けた、持続可能な仕組みづくりをお願いいたします。</p>
<p>富良野市さんには、日頃より温かいご支援と連携をいただき、心より感謝しております。</p> <p>現場では複雑な課題を抱えるケースも増えておりますが、今後も行政はじめ、関係機関の皆様と密に情報共有を行い、ご家族や本人が一人で抱え込まずに済むような体制を共に作っていただければ幸いです。</p> <p>引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>
<p>学校にいる間は大人（教員）の目が行き届いているが、下校後は子どもたちだけの時間になることが多く、大半は共働きであるため問題行動が起きてしまいやすい環境となっていると思います。</p> <p>道路で危険な自転車運転をしていたり、連なっていることも見かけます。</p> <p>公園では自分たちの場所だと、他児らを追い払い陣取っているという話も聞きます。まだ、そのくらいの程度であっても、大きなことが起こる前に小学生の下校後の居場所の確保も必要と感じます。</p> <p>そういった子どもたちは、用意された場所に最初は嫌がると思うが、早めに環境を整え、心地よい場所と安心、信頼できる大人がいてくれると、少しずつでも落ち着いて過ごせるようになると思います。</p>
<p>私たちの活動に理解をいただき、年に1度、毎年学校区の地域で生の舞台を観る活動を続けていますので、その「地域公演」の際に子どもたちの日常的な場として、小学校の体育館を貸していただきたいです。</p> <p>子育て支援センターに読み聞かせなどで参加させていただきたいです。</p>
<p>富良野市という豊かな自然を生かし、観光地でもある賑わいとはまた逆に、のどかな雰囲気味わえるようなイベントをつくる…（今現在もやっていたらごめんなさい）。</p> <p>親子で集える場を増やす。</p> <p>ヘソキッズランドができたのは大変ありがたく、室内で遊べる場所がある安心感にははかり知れません。園でもよく利用させてもらっていますし、土曜日も開いているので、とても便利。さらに違う場所にできるといいなと思っています。（お金がかかりますね。）</p>
<p>こどもや若者を真ん中に据えたまちづくりは、ますます重要になってくると思います。</p> <p>今回、多角的にアンケートを実施されたこと、今後のワークショップ等の取り組み等から計画が策定され、形になっていくことが楽しみです。</p> <p>すべては、人権に関わることとして、すべてのこども、若者が尊重され、当事者が主体的に様々な場面で意見や参加の機会が持たれる仕組みづくり、地域全体でさせられるように進められることを期待しております。「富良野に生まれてよかった」「富良野市が好き」と言ってもらえる地域になると良いです。</p>

## 自由意見

アンケート趣旨とは少し違うかもしれませんが、近年では公園での野球やサッカーが危険視され、子どもたちの健全なあそび場が限られているように思います。公園に集まってもゲームや SNS で盛り上がるしかないのです。親子や子どもたちだけでも気軽にスポーツを楽しめるような、スポーツ公園的な環境があると良いと思います。管理人が常駐し、野球道具やサッカー、ラグビーボール等の貸出しも行ってけるとなお、素敵です。

子どもたちの健全な育成は、家庭や学校環境だけではなく、人との様々な経験を通して、何かに興味や関心が持てるような環境づくりも大切だと思います。

子ども・若者支援には、保護者、家庭への支援が一体的に行わなければなりません。家庭や社会環境に大きく左右される、子ども・若者の問題をその環境の核である家庭保護者の厚い支援によって解決に向かう事例が多くあります。特に経済的事情（格差）によって、子どもや若者への支援に傾斜が惹起するのは行政として最も注視すべき課題です。

富良野市は自然も多く、四季を感じられる豊かな場所だと思います。

観光客の利用も多く、外国の方と接する機会も増え、子どもを取り巻く環境も大きく変化したと思います。また、共働き世帯が増え、低年齢からの留守番や、小学生と園児の留守番が課題と感じています。

昔よりも近所付き合いが減り、スマホや YouTube 等、電子機器で過ごす時間が当たり前になっている中で、子どもたちの成長に必要な、自然な刺激や必要な対応力が経験できる場所や取り組みを増やせるような富良野市であってほしいと思います。

この国の未来そのものである子ども・若者が健やかに育ち、生きにくさのなかでも適切な支援を受けながら、その人らしく活躍できる社会をつくることは最も基本的で重要な地域の役割だと思います。

子ども・若者に関わる全ての機関や関係者が我がごととして、主体的に課題に関わり、枠にとらわれない連携により地域の支援力が高まっていくことを望んでいますし、当法人も積極的に子ども・若者の課題にかかわっていけるよう体制を整えていきたいと考えています。

何でもデジタル化、AI 等が進んでいるが、子どもたちのネット依存も進行している。昔はもっと子どもが体を動かしたり、近所の子どもと外で遊んだり、レク的なことを多くやっていた様に思う。

なかなか今の状態を変えることは難しいと思うが、大人がレク的な遊びやコミュニケーションを図る場を用意してあげることはできるのではと考える。

今回幅広く、アンケート調査を実施しているので、富良野市の総合的な支援体制づくりにそれぞれの声が活かされると良いです。

富良野に住みたい、仕事がしたい、子育てしたいという若者が増えるような環境作り、支援や制度の拡充が出来たらと思います。

札幌、旭川等、子どもサロンを定期で行っていると聞のですが、富良野ではまだまだだと思います。

民協には主任児童委員が3名います。民生委員なのですが、地域を富良野全域とし、児童、生徒を中心に活動する役目です。その役目をフルに発揮できないところが気になっています。関係機関との関わりを密にできるともっと協力していけると思います。